

平成19年度に実施された事業の結果報告及び今後の方向性(概要)

※本ページは各事務事業の概要紹介と19年度の報告を目的としています。評価の詳細については次ページをご覧ください。

事業名	陶磁器リサイクル推進事業	所管	環境クリーン部 廃棄物対策課
			Tel 2998-9146

事業の目的 (何の為に 行うか)	家庭で不用となった陶磁器を回収し、今までの「埋め立て処理」から「リサイクル粘土」「新しい食器」「工業用製品」などとして再生利用し、ごみの減量と資源化を図る。
------------------------	--

対象 (誰を、何を 対象としてい るか)	市民(世帯)	対象とした数	139,595	世帯
		実際に 利用した数	2,285	世帯

活動の内容	(何を したか)	①家庭で不用となったり割れてしまった陶磁器を古着・古布回収実施時に併せて回収する。②リサイクル不適合物を取り除き、陶磁器を資源として再生利用する業者へ搬送する。③陶磁器を粉砕した後、粘土の原料の一部として利用し、新しい食器を作ったり、耐火用レンガ・炉材などの工業用製品などに有効利用している。							
活動実績	項目名	陶磁器の回収	14,004	項目名	回収拠点数	95	項目名	参加世帯	2,285
			----- 単位 kg			----- 単位 回			----- 単位 世帯

経費 (どれだけか かったか)	当初予算額(千円)	決算額(千円)	事業費合計(千円) ※人件費・公債費を含む	市民一人当たり単価(円)
	1,728	1,436	4,348	12.8

成果 (結果として どうなった か)	成果指標名	説明 (計算方法等)	目標値	実績	達成率
	廃陶磁器の回収量		25,000	14,004	56.0
			----- 単位 kg	----- 単位 kg	----- 単位 %

今後の 方向性 (所管の意 見)	総合 評価	* 事業の継続 ⇒ 拡充 縮小 統合 * 改善・効率化 改善余地なし その他 []				
		終了 ⇒ 事業完了 終了 休止				
	予算	* 現状どおり 増額 減額 終了				

今後の 方向性 (二次評価の 意見)	二次評価実施の有無 有り⇒下記評価へ * 無し⇒終了					
	総合 評価	拡充 縮小 統合 改善・効率化 改善余地なし その他 [] 終了				
	予算	現状どおり 増額 減額 終了				

平成 20 年度事務事業評価表(一般用)

①事務事業名		担当 部課	部課コード	050400	TEL	2998-9146
事業コード	050406		環境クリーン部 廃棄物対策課			
陶磁器リサイクル推進事業			グループ	減量・リサイクル		
開始年度		平成 16 年度	—	終了年度	平成	年度

②事業の概要	事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> 法定受託+附加			根拠法令					
	分野別計画・指針	一般廃棄物処理基本計画			廃棄物の処理及び清掃に関する法律					
	関連・類似事業	古着・古布リサイクル事業、廃食用油リサイクル事業(廃棄物対策課)			所沢市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例					
	総合計画の体系	政策	第1章 緑豊かな ゆとり・うるおいのあるまち	施策	4節 廃棄物・リサイクル	中柱	1.ごみ減量とリサイクルの推進	小柱	(2)リサイクルの推進	
	行政改革大綱における行動計画への位置づけ	・H19市民意識調査における施策の順位…43施策中 4 位			・実施計画における位置づけ…			H19	<input type="radio"/>	H20
事業開始の背景	循環型社会形成基本法の制定により、循環型社会の形成を目指し、資源として有効活用が可能な陶磁器について、平成16年度から市内公共施設(43箇所)等を利用しての拠点回収を実施した。									

③事業の内容	目的(何のために行か、具体的に) 家庭で不用となった陶磁器を回収し、今までの「埋め立て処理」から「リサイクル粘土」「新しい食器」「工業用製品」などとして再生利用し、ごみの減量と資源化を図る。									
	対象(誰を、何を対象としているのか)					利用数の考え方				
	市民(世帯)					参加世帯				
	対象数	単位	平成 18 年度	137,915	世帯	利用数	単位	平成 18 年度	2,575	世帯
			平成 19 年度	139,595	世帯			平成 19 年度	2,285	世帯
事業の具体的な内容及び実施方法										
①家庭で不用となったり割れてしまった陶磁器を古着・古布回収実施時に併せて回収する。②リサイクル不適合物を取り除き、陶磁器を資源として再生利用する業者へ搬送する。③陶磁器を粉砕した後、粘土の原料の一部として利用し、新しい食器を作ったり、耐火用レンガ・炉材などの工業用製品などに有効利用している。										

④前年評価と改善点	平成19年度事務事業評価結果(平成20年度の方向性) << 最終評価 <input checked="" type="checkbox"/> 一次評価 <input type="checkbox"/> 二次評価 >>									
	総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の継続 => (<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 [])								
	予算	<input checked="" type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了								
	平成19年度中に改善した点 陶磁器リサイクル事業によりできた新しい食器を事業に協力していただいている地域へ配布することにより、事業への理解を深めてもらうとともに、取り組みのPRを行い事業の推進を図った。また、リサイクル粘土を一般や子供向けの陶芸教室に利用するだけでなく、民間の陶芸教室でも利用してもらうことで資源の循環を図っている。									

⑤経費	《会計種別》	一般会計	平成 18 年度 (千円)	平成 19 年度 (千円)	平成 20 年度 (千円)
	当初予算		1,532	1,728	1,034
	決算(見込み含む)		1,258	1,436	
	(嘱託職員)(臨時職員)	(人) (人)	(人) (人)		
	正規職員人件費		0.37 人 3,404	0.31 人 2,912	※「財源内訳」について平成20年度のみ、当初予算の内訳となっています。
	公債費				
	事業費合計		4,662	4,348	
	財源内訳	一般財源	4,650	4,337	954
		国・県支出金			
		受益者負担金			
	市債				
	その他	12	11	80	
	市民一人当たり(単位:円)	13.8	12.8		
	利用数一単位あたり(単位:円)	1,810.5	1,902.9		

⑥指標	項目名	陶磁器の回収	計算方法	回収実績	単位	kg	H 18	H 19	H20見込み	将来目標
	活動実績	回収拠点数	延べ拠点		回		14,330	14,004	15,900	
		参加世帯	延べ参加世帯		世帯		96	95	96	
							2,575	2,285	2,680	
	成果分析	陶磁器の回収量	目標値		kg		25,000	25,000	25,000	
実績						14,330	14,004		実績値の拡大を図る1	
達成率				%		57.3	56.0		実績値の縮小を図る2	1

⑦一次評価	評価項目	現状評価	事業の対象を見直す必要性	評価項目	現状評価	現在の実施主体	見直しの必要性
	対象設定	<input type="checkbox"/> 対象を絞る <input type="checkbox"/> 対象を拡大する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの必要なし	実施主体	市	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無		
					他事業との整理・統合	<input type="checkbox"/> 統合する <input type="checkbox"/> 連携する <input type="checkbox"/> 類似事業がない <input checked="" type="checkbox"/> 統合等必要なし	受益と負担の関係
	明らかとなった課題	陶磁器の排出量は、平成18年度、平成19年度と減少している。今後も引き続き、広報やホームページで事業を紹介することにより、事業の推進を図るとともに、事業の趣旨を説明し、異物混入を防ぐための呼びかけを行う必要がある。また、市民に対し、排出する機会を多くするため、回収拠点数や回収日数を増やすことについて検討する必要がある。					
	評価	今期目標項目(何を)	回収数の増加	達成水準(どこまで)	広報や市のホームページを通じ広く市民にPRを図る	時期(いつまで)	平成20年度末
平成21年度における事業の方向性		総合評価 <input checked="" type="checkbox"/> 事業の継続 => (<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 []) <input type="checkbox"/> 終了 => (<input type="checkbox"/> 事業完了 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 休止)					
予算 <input checked="" type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了							
評価理由 陶磁器を回収し、資源化することで、燃やさないごみや埋め立て量の削減が図られるとともに、循環型社会の形成に関する意識啓発の上で有効な事業である。今後も事業を推進するため、ホームページを活用したり、広報に掲載するだけでなく、当事業からできる「リサイクル粘土」を使用した陶芸体験教室を開催することで市民に資源の循環を体験していただくとともに事業のPRを図る。							
評価日 平成20年5月1日 記入者職氏名 廃棄物対策課主幹 二上 清次							

⑧二次評価	一次評価を受けて	平成21年度における事業の方向性						
	総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 [] <input type="checkbox"/> 終了						
	予算	<input type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了						
	評価理由	評価日						
⑨個別計画における方向性	次年度用事前評価	部内優先順位… 位	非常に高い	高い	やや低い	低い	優先度評価	<input type="checkbox"/> A:優先的に資源配分をするべきと評価する事務事業
	見込まれる貢献度	総合計画上位目標	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/> B:重要であり引き続き実施すべきと評価する事務事業
		市長マニフェスト	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/> C:現状での実施は見送るべきと評価する事務事業
		評価理由	評価日					

⑨個別計画における方向性	◎環境基本計画	本事業の左記計画における位置づけ…有り	計画コード	322
	実施の体系	3-2資源循環の促進	施策の方向	3-2リユース・リサイクルの推進
	◎次世代育成支援行動計画	本事業の左記計画における位置づけ…無し	計画コード	
	基本目標			
主要課題				
施策の方向				